

平成30年3月定例会

平成30年度予算審査について

一般会計予算額 **204**億円

特別会計予算額 **110**億円

※予算概要は「広報おごおり」4月号をご参照ください。

去る2月28日、全議員で構成する予算審査特別委員会に付託されました一般会計予算及び特別会計予算、計8件につきましては、3月1日、2日及び5日の3日間、関係部課長、係長に出席を求め、慎重に審査を行いました。

個々の予算や各部・各課の説明に対しては様々な質疑、議論がありました。本会は全議員で構成する特別委員会であるため、各課の説明、質疑等につきましては省略をさせていただきます。委員間討議を行いました。三国学童保育の件について報告させていただきます。

委員間討議

本件について、学校は、学舎として子どものことを第一に考えるべきだと思いが、三国小学校においては、給食調理室や職員等の駐車場整備が優先され、学童保育所の整備が更に遅れるのではないかと。また、平成31年度から学童保育所の利用は出来るのか。担当部間（保健福祉部と教育

部）で十分協議を行い、計画的に実行されているのか。更に、各種工事により校内における環境が悪化するのではないかと等、多くの意見が出されましたので、改めて保健福祉部長、教育部長に説明を求めました。

執行部の説明

その中で、学童保育所の整備、自校式給食調理室及び駐車場の整備については、ほぼ同時進行で実行する予定であり、いずれも平成31年3月末の工事完了を目指しています。今後とも、保健福祉部、教育部と連携し、協議を行いながら取り組んでいきます。また、学校環境については、今後も十分に配慮しながら学校と協議して進めていきますとの説明がありました。

予算審査 特別委員会より

本件に関しましては、執行部に対してこれまでの経過を踏まえ、平成31年4月から開設できるように、また各種工事が重なるので児童の安全面に配慮しながらしっかりと進めていくよう、要請しました。

審査した主な 事業の一部

◆発達巡回相談事業

保育所等へ専門員が巡回し、職員や保護者に対し、早期対応のための助言を行う。平成30年度からは、早期発見のため巡回先に乳幼児健診も追加する。

◆保育士就職支援準備金

保育士確保のため、市内の認可保育所に新たに2年以上保育士として勤務する人に最大20万円を給付する。

◆橋梁維持補修事業

橋梁の点検や稲吉橋の補修と歩道整備、三國が丘連絡橋の補修などを行い、良好な交通環境を確保する。

◆学校支援地域本部導入事業

保護者、地域住民及び関係諸団体が協力し、地域全体で学校を支援し、子どもの健全な成長及び地域の教育力向上を図ることを目的とする。

◆園芸施設等整備事業補助金

各園芸農家による野菜、花き等振興のため、ハウスや附帯施設、機械器具等の整備に對して補助金を交付する。

◆地域おこし協力隊活動事業

市外（都市地域）の人材を誘致し、地域に定住してもらい地域の活性化に取り組んでもらう。

◆ふるさと納税推進事業

特産品のPRや返礼品の拡充等を通して、小都市の魅力在全国に発信することにより、更なる寄附金の増収を目指す。

所管事務調査 (意見交換会)

1月22日に保健福祉常任委員会の所管事務調査として、ケアマネジャーの皆様との意見交換会を行いました。

【テーマ】

- ・介護申請における現状と課題について
- ・平成30年に改正される介護保険制度に対する課題について
- ・訪問診療と訪問介護の連携における課題について

地域包括ケアシステムの構築に当たっては、在宅医療と在宅介護に関わる事業所及びスタッフの連携が何より重要になってきます。特に、サービス提供を行う医療・介護スタッフの間で、利用者、家族についてのきめ細かな情報と医療・介護方針の共有が必要です。今回の意見交換会では、特にこれらの点について意見交換を行いました。

【主な意見】

- ・新規の介護認定申請を行う場合、他市町村においては、ホームページに申請関係様式等がアップされており、それをダウンロードして使えるようになってきているが、小郡市はそうようになっていないため、ダウンロードできるようにしてほしい。
- ・老老介護や本人が認知症の場合、地域の民生委員でも実態を掴みきれないことがあり、未申請の方も多く、必要なサービスを十分に受けることができていない方も多くおられるのではないかと思う。



- ・癌末期の方は容態が変化しやすく介護度の変更が必要になるので初めから介護度2以上とした方が望ましい。

- ・地域でリハビリができるようになる仕組み、例えば校区公民館に運動指導員を配置するなどを考えたかどうか。

- ・訪問調査時の立会いを認めてほしい。状況によっては家族以上にケアマネジャーのほうが、状況を把握している。

- ・支援事業については、社会資源の活用が重要だが、小郡市は社会資源が少なく、その状況が改善されないまま、制度だけが始まったので、それを充実させる必要がある。

※社会資源とは、問題解決の目的に使われる各種の施設、制度、機関、知識や技術などの物的、人的資源の総称。

今回、いただいた意見については、委員会で整理し、課題については、担当部署と協議を重ね改善できるように取り組んでいきます。

議員研修会

2月19日に保健福祉常任委員会の企画により、市役所において研修会を行いました。

【講演内容】

地域包括ケアシステムの構築に向けて

【講師】

医療法人社団豊泉会
丸山病院 理事長
丸山 泉 先生

後期高齢者が急激に増える2025年問題を控え、小郡市における地域医療・介護の体制をどう整備していくのかは極めて重要な課題です。現在、小郡市は小郡三井医師会や地域内の医療機関、介護事業所等と連携して地域包括ケアシステム構築に取り組んでいます。この中で、市民が在宅医療・介護を行うためにどのような支援体制が必要なのかが特に重要です。急性期における入院か

ら回復期、リハビリに移る際のきめ細かな医療・介護の計画づくりにおいては、ケアマネジャーを中心に医療と介護の担当者が患者情報と介護方針を共有しておくことが不可欠です。その基盤には医療・介護従事者及び小郡市の担当職員間の相互信頼に根差した協力関係ができていなければなりません。

今回、丸山先生から「プライマリ・ケア」の考え方を中心に高齢者の医療・介護も含む今後の地域医療の在り方を伺うことができました。

※プライマリ・ケアとは、患者が中心で、身近にあつて何でも相談のつてくれる総合的な医療のこと。

その中で、欧米における家庭医の話をされました。現在、日本の医療は専門が細かく分かれており大学病院を頂点とした高度医療ばかりが注目されているが、市民にとって日常生活で本当に大切なのは、自らの健康を総合的に見てくれる地域の医師であつて、そこでの診察の結果、必



要に応じて専門医に診てもらおうという体制こそ必要ではないかということでした。具体的には、小郡市内完結型医療及び介護、施設間情報と行政情報とのリンクを目指して小郡三井地域包括ケアシステム研究会が既にあると言われました。

また、今般の地域包括ケアシステムでは、盛んに在宅医療・介護と言っているが、在宅介護至上主義ではなく、適材適所で、現在小郡市にある医療・介護の諸機関をうまく活用していくことが大事だということでした。特に、家族介護では、排泄処理、オムツ交換や認知症による夜間徘徊など夜間の問題が最も深刻で、その他にも老老介護など家族介護の負担軽減及びケアについても真剣に考えていかなければならず、これらの現実に目をつぶってシステムの構築を急ぐことは避けなければならぬということでした。

今、医療・介護の現場では人材不足が極めて深刻だということで、もっと介護従事者の待遇を改善する優遇策をとるべきで、将来にわたって外国人労働者の受け入れも必要であり、それらの人々に対して、小郡市独自の研修・認定を行い適正証を発行するなどの工夫も必要ではないかとの示唆もいただきました。

また、地域ボランティアによる認知症カフェを複数の地域につくるこ



とも考えたかどうかとの提案もいただきました。

医療・介護の現場と世界・国・地域の医療実態の両方に精通されている丸山先生ならではの多面的なお話は大変参考になり学ぶことが多くありました。